

令和2年度第三回京都市動物愛護推進会議

1 開催日時

令和3年2月25日（木） 午後2時～午後3時30分

2 開催場所

京都市消防局本部庁舎 7階 作戦室

3 出席者（敬称略）

<座長>

森 尚志（公益社団法人京都市獣医師会 会長）

<委員>

上村 享（近畿ケネル協同組合 理事）

大國 智子（市民公募委員）

鍵村 佳江（京都市教育委員会総合教育センター指導室 指導主事）

高橋 邦子（公益社団法人京都市保育園連盟 常任理事）

古橋 博昭（公益財団法人関西盲導犬協会 常務理事）

升光 泰雄（公益社団法人京都市私立幼稚園協会 会長）

松岡 幸子（認定NPO法人アンビシャス 理事長）

村田 裕史（公益社団法人京都市獣医師会 副会長）

山崎 陽子（京都市保健協議会連合会 会長）

和田 晴太郎（京都市動物園 副園長）

<事務局>

安部 康則（健康長寿のまち・京都推進担当局長）

中谷 繁雄（医療衛生推進室長）

南 秀明（医療衛生推進室医療衛生センター長）

田邊 輝雄（京都動物愛護センター所長）

西原 和美（医療衛生企画課生活衛生担当課長）

河野 誠（医療衛生企画課動物愛護係長）

4 次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 座長選出
- (5) 内容

協議事項

- ① 第二期京都市動物愛護行動計画概要案に関する市民意見募集結果について
- ② 第二期京都市動物愛護行動計画案について

5 会議録

第二期京都市動物愛護行動計画概要案に関する市民意見募集結果について

【委員長】 「第二期京都市動物愛護行動計画概要案に関する市民意見募集結果について」事務局から報告をお願いする。

- 【事務局】 資料1「第二期京都市動物愛護行動計画概要案に関する市民意見募集結果について」により説明。
- 【委員長】 ただいまの説明について、御質問、御意見等はないか。
- 【委員】 様々なところとの連携という説明が多くあったが、市民の目線では、動物愛護部局が今後どういったところと連携していくのか、また、市民がどのように関わっていくのかをわかる化する必要がある。例えば、市民が相談したらどうなるのか、ホームページや市民しんぶん等で分かりやすい発信をすべきである。
- 【事務局】 御意見のとおり、市民が動物の虐待や多頭飼育崩壊といった事例を探知した際に、どこが窓口となるのか、通報後の対応はどうなるのか、という点が明確にできれば相談しやすくなる。まずは連携の体制構築を進め、その体制を市民に分かりやすく発信していきたい。

第二期京都市動物愛護行動計画案について

- 【委員長】 「第二期京都市動物愛護行動計画案について」事務局から報告をお願いします。
- 【事務局】 資料2「第二期京都市動物愛護行動計画案について」により説明。
- 【委員長】 ただいまの説明について、御質問、御意見等はないか。
- 【委員】 他の自治体ではふるさと納税等を活用しているところも多い。既存の枠組みを利用すれば大きな労力はいらないうし、使い道をはっきり示せば寄付も集まりやすいと考えるが何か検討されているのか。
- 【事務局】 現在、京都市では動物愛護事業推進基金を設けて、多くの方から御協力いただいている。まずは基金の周知啓発が重要だと考えているが、別の方策についても検討していきたい。基金は啓発事業等にも活用させていただいているところであるが、犬猫のために特化して使って欲しいというお考えで、餌等の物資を寄付される方もおられる。京都動物愛護センター（以下、「センター」という。）が現在どのような物資を必要としているかを示していくことも検討したい。
- 【委員】 センターが物資の寄付を受け付けていることを知らない人もたくさんいると思う。動物園では動物の部屋ごとに協賛企業等の名前が掲示されているが、センターでも寄付している企業等が市民にも伝わるようにすれば、新たに寄付をする企業が出てくると思う。
- 【事務局】 新たに寄付していただけるような取組について、今後注力していかななくてはならないところだと感じている。このためにも、センター自体の認知度を向上させることが重要である。動物園に比べると、センターの認知度はまだまだ低い。動物園の取組なども参考にしていきたい。
- 【委員】 先日ドッグフードをセンターに寄付したが、寄付を申し出るまでにハードルがあると感じた。ドッグフードの寄付を考えておられる方はたくさんいると思うので、センターから、ドッグフードを寄付して欲しいというメッセージを発信していただきたい。
- 【事務局】 今後は積極的に発信していきたいと考えている。
- 【委員長】 アメリカには収容動物の檻ごとに寄付者の名前が掲示され、動物の飼育費がその寄付者によって賄われていることを示している。寄付者を増やす方法の一つとして参考にしていきたい。また、センターに寄付したいと思っているのに、やり方が分からないという方がおられる。寄付について分かりやすく周知して欲しい。
- 【事務局】 寄付の方法、成果についても、しっかりと情報発信していきたい。

その他

- 【委員】 マイクロチップについてだが、センターではマイクロチップによって飼い主が見つかる

る事例はよくあるのか。

- 【事務局】 犬の場合は猫の場合よりも多い印象である。しかし、マイクロチップが入っていても、台帳の登録情報が更新されていないために、飼い主が見つからない事例もあった。
- 【委員】 マイクロチップの有用性を感じられる機会が少ないと思っている。計画にマイクロチップについて記載するのならば、装着のメリットも記すと良い。
- 【委員】 情報発信の難しさについてはよく実感している。例えば、子どもたちがいのちの大切さを学ぶ機会を多く持ちたいと思っはいるが、コロナ禍でなかなか進められなかった。よりよい発信方法について、ともに勉強していきたい。
- 【委員】 小学校では、生活科で、動物の飼育から、命の尊さを学ぶ取組を、獣医師会などの協力をいただきながら進めている。しかし、昨今は様々な事情から学校で動物を飼育することが難しくなっている。現場としては動物と触れ合う機会をつくりたいと思っはいても、そうできない学校もある。そのような状況から、動物愛護部局と上手く連携をとり、動物にも負担をかけず、子どもたちに学びの機会を提供できるやり方を考えていきたいと思う。また、副読本についても上手く活用していきたいと思っはている。
- 【委員】 町内で野犬が目撃されており、以前から京都市には相談している。現在捕獲の準備を進めているが、その中で野犬の対策を周知していくことも重要だと感じた。野犬を捕獲することの大変さを伝えることで、所有者明示を意識する市民も増えるのではないか。ペット防災については、市民へ同行避難が可能な避難所等の情報を発信する必要がある。また、避難所がペットの受入れを不可とした場合に、その後の働きかけ方等について、また相談させていただきたい。
- 【委員】 今回のコロナ禍でペットが良く売れていると言われているが、販売することを重視して、顧客へ適正飼養が適切に伝えられていないケースがあるようである。難しいとは思っはいるが、消費者にも問題意識を持ってもらいたいと考えている。ペットフードの寄付の件だが、メーカー等に消費期限前の商品をもらえないか交渉してみてもいいのでは。
- 【委員】 動物園ではサポーター制度として、寄付いただいた企業や個人のお名前を園に掲示している。他には、動物の餌のために植物の葉が必要となり、その剪定について寄付を求めたところ、市内の造園業者から寄付をいただけたケースがあった。そのような形で必要な物を示しつつ、寄付をPRすることで、寄付した側もされた側にも良い関係がつかれる。そのことが口コミとなって、新たに寄付を考える方も出てくる。
- 【委員】 先日テレビを見ていると、保護犬の特集がやっていたが、そのなかで供血犬という言葉がでてきた。供血犬とういものをその時初めて知っはったのだが、京都にもいるのか。
- 【委員長】 20年くらい前には供血犬を飼っている動物病院もあっはったかと思っはいる。しかし、動物愛護の気風が高まっはっている昨今では、動物病院で供血犬を飼っているというようなところはほとんどなくなっはっていると思っはれる。
- 【委員】 最近、センター周辺の治安があまりよくないう話を聞いた。街灯の増設や警察官に見回りにきてもらうなど、セキュリティ面の強化を検討してはどうか。獣医師会として、殺処分の減少に貢献できればと思っはている。特に、猫の殺処分を減少できるように、何かできないか協議していきたい。
- 【委員】 補助犬がいまだに入店拒否されるケースがある。補助犬は法律で拒否できないように定められているものなので、そのことをもっと周知していただきたい。
- 【委員】 専門知識をお持ちの方が社会に何が大切かということをなげかけ、行政の役割を示すことが必要だと感じている。動物愛護憲章が啓発され、そのことに興味をもつ方が増えていくことが大切であり、その意味では色刷りで写真の入っはったこの計画は良っはったと思っはいるが、まだ少し難しいと感じている。また、小中学生の教材を研究していくことのだが、高校生に向けた資料や大人を対象としたアニラブクラスを検討してみても

良いのではないか。

- 【委員長】** これまで学校でうさぎを飼育して、子どもたちにいのちの大切さを伝える活動をしてきたが、学校で動物を飼育することが難しくなっている。センターでうさぎを飼育して、学校に貸し出すようなことはできないのか。
- 【委員】** 動物愛護教育のためにうさぎに負担がかかるような仕組みは受け入れられない。動物福祉も考慮した仕組みを考えるべきである。
- 【事務局】** パブリックコメントの意見にも、動物福祉という視点から、犬やうさぎの負担を減らすために副読本を活用すべきというものがあつた。現状、コロナの影響で学校への訪問も困難になっているが、これを一つのきっかけとして、動物にも負担をかけない新たな取組を、学校側とも相談しながら考えていきたい。
- 【委員長】** 事務局には本日の意見を計画に反映していただければと思う。